

平成17年度 学校経営計画

学校番号	42	学校名	静岡東高等学校	校長名	須藤 壽忠
------	----	-----	---------	-----	-------

1 目指す学校像

本校では、創立以来、「自分に負けるな」を生徒の実行目標とし、学業と人間形成の両面において、生徒一人一人を大切に育てることを教育方針にしている。

この教育方針を達成するために以下の重点目標を持った学校を目指す。

- (1) 人間として「自覚と責任」のある生き方ができる自律の心を育てる。
- (2) 進路希望達成のため学習活動を充実し、意欲的な学習態度を身に付けさせる。
- (3) 生徒一人一人の活力、特性を最大限に伸ばすことを目指す。

2 中期的目標と方策

(1) 中期的目標

- ア 自律の心を育て、基本的生活習慣の定着を図る。
- イ 組織的な進路指導の推進を図る。
- ウ 勉学を重んじ、質の高い授業を実践し、生徒の学力の向上に努める。
- エ 学校行事の内容の充実と部活動、生徒会活動を奨励し、積極的な参加を促す。
- オ 家庭・地域との連携協力を図り、豊かな教育を展開する。
- カ 教育の環境改善を図る。

(2) 中期的目標達成のための方策

- ア 自律の心を育て、基本的生活習慣の定着を図る。
 - ・学校行事、生徒会活動や部活動等の集団生活で自律の心を育て、規範意識を持たせ社会性を養うために、学校や社会におけるルール・マナーを遵守させる指導を行う。
 - ・遅刻・欠席を無くす指導の工夫と授業のベルと共に着席し、授業を開始する指導を行う。
 - ・生徒を交通事故から守り、交通社会の一員として正しい交通マナーを身に付けるよう交通安全指導を継続的に実施する。
- イ 組織的な進路指導の推進を図る。
 - ・進路指導課、学年と教科の連携を密にした3年間一貫した体系的進路指導をつくり、進路対策の充実を図る。
 - ・高大連携である専門教養講座や大学や社会で活躍する講師による社会専門講座等のキャリアガイダンスの充実に努め、早期に進路目標を決定できるように指導する。
- ウ 勉学を重んじ、質の高い授業を実践し、生徒の学力の向上に努める。
 - ・生徒の習熟度に合わせたきめ細かい指導をとおし授業の充実を図る。
 - ・先進校の取り組みについて研修を行い、改善できるものは取り入れていく。
 - ・年間の指導計画を作成し、授業の実践をとおして教師の教科指導力の向上を図る。
 - ・授業を充実するため生徒の家庭学習の習慣を身に付けさせる。
 - ・思考力を養い、創造力豊かな人間を育成するため読書の習慣を身に付けさせる。
- エ 学校行事の内容の充実と部活動、生徒会活動を奨励し、積極的な参加を促す。
 - ・生徒の自主的活動を支援し、健全な人格形成を図り、学校への帰属意識を高める。
 - ・学習と部活動を両立させる意識を育て、活力ある学校とするとともに、学校の取組が対外的にも評価されるように、各種の大会や発表会等活躍する生徒を育成する。

- オ 家庭・地域との連携協力を図り、豊かな教育を展開する。
 - ・家庭に学校からの情報をより一層発信し、地域住民には学校祭の公開や交通安全指導等を通し、学校への理解を深めるためより家庭及び地域住民との連携を図る。
- カ 教育の環境改善を図る。
 - ・進路意識の向上、教養を深め、及び自分探しの手立てを援助するため図書館の施設の充実を図る。
 - ・階段を使用しやすくするため照明を設置し、より良い学習環境に改善する。
 - ・バリアフリーにするため、段差の解消、トイレの改修、階段昇降機を設置する。

3 今年度の取り組みと方策

(1) 重点目標

- ・生徒の交通マナー遵守の意識向上を図り、交通事故を減らす。(平成16年度14件)
- ・時差登校時間を厳守し、年間延べ遅刻者数を減少させる。(平成16年度2,200人)
- ・日常生活のリズムを安定させ、欠席者数を減少させる。(平成16年度2,900人)
- ・国公立4年制大学合格を40%、実進学を3分の1以上にする。
- ・より一層の進学指導体制充実のため、職員を8人以上先進校へ派遣する。
- ・図書館の年間貸し出し数を2,500冊以上にする。(平成16年度3,000冊)
- ・学力向上委員会を継続して、東高としての授業のあり方を研究する。
- ・面接を通じた総合的個別指導を充実させる。
- ・教育相談を充実させ、長期欠席者の対応を図る。
- ・情報システムを確立させ、情報セキュリティを図る。

(2) 教育活動の目標と方策

ア 基本的な生活習慣の定着

- ・日常生活の中で礼儀作法(言葉遣い、挨拶、人への対応等)を指導する。
- ・服装、頭髪、遅刻指導を各学年ごと年3回の指導週間を中心に実施する。
- ・きめ細かな健康管理をおこなうとともに、自己管理をおこなえる能力を育てる。
- ・清掃美化に努め、清潔で学習に適した環境の充実に努める。
- ・年3回、教師と保護者、生徒の三者が交通の要衝に立ち、交通マナーの実地指導をする。また、そこでの反省をもとに生徒指導に反映させる。

イ 進路指導の充実

- ・学年部・教務課と連携し、日常の学習指導及び学校設定科目・PTA進路講座・長期休業中の補講を体系化して指導の充実を図る。特に、5教科7科目の対応を優先して行う。
- ・学習時間調査の結果を、日常の学習指導及び週末課題に活かす。
- ・総合的な学習の時間を中心に、望ましい職業観・勤労観を育み、生徒自らが進路を選択し決定できる能力を育てる。
- ・高大連携事業の専門教養講座に加えて中高連携の体制を整え、新入生が中学から高校の学習内容へ抵抗なく移行できるよう研究する。
- ・生徒のインターネットによる情報収集を更に充実させるよう進路指導室の環境を整える。
- ・1年生 新入生初期指導プログラムにより、高校生としての意識を高めさせる。
社会専門講座において専門的な内容に早期に触れさせ、事前・事後(その都度まとめを生徒に流す)を更に充実することで、職業観・学問観を養う。
- ・2年生 総合的な学習の時間・修学旅行などの機会を利用し、望ましい職業観・勤

労働観を育み、自分の進路を決定する力をつけさせる。また、総合的な学習における課題として、夏季休業中のオープンキャンパス参加を課す。社会専門講座の継続した受講を促す。

- ・ 3年生 学校設定科目と他の補講を体系化し、内容の充実を図る。
全職員で指導している小論文指導を充実・継続する。
学力向上フロンティアハイスクールの研究対象学年であり、3年間の研究内容のまとめを行い、進路指導の充実を図る。

ウ 学習指導の充実

- ・ 高校生活導入指導プログラムにより、新入生が早く高校の学習習慣が身につくよう指導する。具体的には、高校生の学習方法を記した「学習の道しるべ」を使い、新入生に授業の受け方・ノートのとり方や家庭学習の必要性を指導する。
- ・ 新入生に対してHR合宿指導を行い、予習・復習の大切さを体験させ、その重要性を指導する。
- ・ 学習・生活プログラムを作成し、宿題や基礎学力の定着を目的にした週末課題を実施し、家庭学習と授業への取り組みを充実させる。
- ・ 各教科・科目のシラバスを作成し、生徒に学習の到達目標に向けての具体的な取り組み・授業進度・評価方法を明示作成し、計画的な学習が行えるようにする。
- ・ 家庭学習の大切さを認識させるため、意識的に予習・復習をさせる授業を行い、家庭学習強化週間を設定する。「家庭学習最低3時間」をスローガンとして目標に向かって努力させる。

エ 特別活動等の充実

- ・ 生徒一人一人の活力・特性の伸長のため、HR活動や生徒会活動の充実を図り、学校行事への参加意欲を高めることにより、学校の一層の活性化を図る。
- ・ 学業と部活動の両立を図るため、部活動の始まりと終わりをはっきりさせ、けじめを付けさせる。また、本校の生徒実行目標「自分に負けるな」の精神を説き、部活動の意義を理解させる。
- ・ 学業と部活動の両立を図るため、顧問、担任、教育相談担当が連携を取りながら精神的支援・学習支援を行う。
- ・ HR活動や部活動に於いて高校生らしい交際のあり方について指導する。

オ 読書指導の充実

- ・ 1年生の朝読書の内容充実を図る。朝読書用学級図書を整備、推薦図書紹介等を行う。
- ・ 教職員・生徒に向けて、新着図書の紹介、小論文対策用図書の紹介等、適切な情報提供を継続的に実施する。
- ・ 教科指導・進路指導と連携して、長期休業時などに、読書活動を含む課題を出す。

カ 広報活動の充実

- ・ 学校経営の方針や学校の特色がわかる学校案内を作成し配布する。
- ・ 学校のホームページを必要に応じて迅速に更新し、学校の最新情報の提供に努める。
- ・ 心の教育、学級懇談会、進路説明会等を通じて保護者に学校の最新情報を提供する。
- ・ 中学生1日体験入学を充実させる。
- ・ 中学生、保護者を対象とした入試に関する説明会を実施する。

キ 防災指導の充実

- ・ 東海地震に備え、防災意識の向上と具体的な避難方法等について指導する。